



持続可能なやさしい未来へ くらしフェスタ開催

くらしフェスタこまえ2022 (第48回狛江市消費生活展) が9月17日(日)にえきまえ広場で開催された。

持続可能な社会をつくるために未来を見つめ、くらしの中の消費について考えようと、会場の18のテントでは包丁研ぎ、まな板削り、壊れたおもちゃの診察、無料不用品交換会、フードライブなどが催されたほか、傘づくりやエコバックづくりなどのワークショップも人気を呼んでいた。会場ではプラスチック製の筆記具、

歯ブラシ、ジップロックの回収も行われた。

狛江フェスティバル 出店やビール楽しむ

「狛江フェスティバル2022」(同実行委員会主催) が9月10日(日)・11日(月)にえきまえ広場と泉龍寺で催された。リアルでの開催は3年ぶり、延べ3万人以上(主催者発表)の人でにぎわった。

泉龍寺では特設舞台上で音楽やキッズダンスなどが披露された。境内ではゲームや菓子などの出店



にぎわう泉龍寺の境内

が並び、子どもたちの列ができていた。

えきまえ広場の「KOMAE BEER FESTA」は市内外のクラフトビール事業者や飲食店が提供する様々なビールや食べ物を味わう人などでにぎわった。

地元デザイナーら13団体 8・9日に岩戸南で作品展

市内在住のデザイナー清水横子さんが8日(日)・9日(月)の午前10時30分から午後8時まで参加型イベントなども交えた作品展「TREE FES」をレストラン「Cuccina Italiana YOKOJI」(岩戸南4-1-8)で催す。



清水さん

清水さんは平成25年に狛江へ転居してデザインスタジオ「TREE」を開業し、和泉多摩川商店街のイベント「一八〇」のアートディレクションなど、市内での活動も行っている。

作品展はスタジオ設立10周年を記念したもので、市内在住の写真家など個人も含め13団体が参加、作品を展示するほか、社会問題カルタのワークショップ、写真撮影、ボードゲーム会を行う。見学は自由だが、参加型イベントは事前申し込み制で公式サイトから。

問い合わせは makiko@tree.treetree.net 清水さん。

エッグアート約100点 12日から展示会

卵の殻に精密な装飾を施したエッグアートの展示会が12日(日)～17日(土)午前10時～午後5時(初日午後12時30分、最終日午後4時)に狛江駅北口の泉の森会館で催される。

エッグアートの著名な作家として知られる市内在住の柏谷果さんが主宰する「エッグ&フラワー

Shop & Service Guide いらっしやいませ ...17

木村メガネ

木村メガネは、来年で創業50年を迎える市内でも古い眼鏡専門店、眼鏡に関する豊富な経験と商品知識、きめ細かいアフターサービスが好評だ。

店主の木村紘さん(81)は認定眼鏡士SS級の資格を持ち、「掛けよくなければ眼鏡ではない」をモットーにしている。店内には常時1,500点以上のフレームがずらりと並び、流行に敏感な若者や女性の希望にこたえるほか、都内でも数少ない高性能な偏光サングラスとして知られる「ALEX」を扱っており、市外から訪れる人も多い。また、店頭には年中行事に合わせた手作

半世紀に及ぶ経験と商品知識 SDGs や地域の活動に取り組む



眼鏡フレームが並んだ店内と木村さん

☎3480-9367、中和泉1-1-1-103、営業時間＝午前10時～午後7時、水曜休み



柏谷さん

アート コノミ教室」が開くもので、柏谷さんのほか教室に通う40代から90代の女性15人が箱庭や童話を題材にした作品100点以上展示する。また、期間中にはワークショップ(有料)も催す。

問い合わせは ☎090-3516-9593 柏谷さん。



りのディスプレイが子どもや通行人の目を楽しませている。

10月は目の愛護月間で、1日は「メガネの日」、10日は目の愛護デーになっているが、同店では顧客から不用になった眼鏡を回収し、東京眼鏡販売店協同組合を通して10月初旬に上野不忍池で催される「めがね供養会」に出している。また、SDGsが叫ばれる以前から、不用な眼鏡をていねいに調整して災害時の被災者用に提供したり、まだ使えるフレームの部品を産地のメーカーに戻して再利用する取り組みに積極的に協力している。

木村さんは世田谷区の経堂駅前にある時計・眼鏡店に生まれた。手先が器用だった木村さんは、時計の修理技術で有名だった父の指導で中学生の頃から時計の構造や修理を覚えたほか、高校時代に眼鏡専門店の団体が催す技術講習会に参加するなど眼鏡の技術も修得した。高校卒業後は、実家の眼鏡部門を経て、千歳船橋にあった姉の夫が営む眼鏡関連会社の直営店「林メガネ店」で働き、昭和48年にオープンした狛江支店の店長になった。54年に独立して現在の店名に変更。最初の店舗は狛江通り拡幅のため62年に建て替え、さらに駅前再開発ビル「エコルマ3」の建設により、平成7年に同ビルに入居した。

木村さんは地域活動に熱心で、狛江通りの拡幅に合わせて「セントラル商店街」を結成、歩道を滑りにくいインターロッキング舗装にしてベンチを置いた。また、多摩川いかだレースに第1回から商店街として参加するとともに、実行委員として長く裏方を務めている。木村さんは「長い付き合いの積み重ねで、個々のお客さんの希望に対応できるのが、私たち専門店の強み。できるだけ長く仕事を続け、たくさんの人に喜んでもらいたい」と話している。

イズミスイングオーケストラ定例ライブ スポット

イズミスイングオーケストラ(中村星児代表)が、9日(日)午後2時(開場1時30分)から西河原公民館で定例ライブ「Ready?」(狛江市教育委員会、狛江市音楽連盟後援)を開催する。



50周年記念コンサート

同バンドは昭和41年に結成された「楽団アンサンブル泉」が前身。歌謡曲などを演奏していたが、その後ジャズを積極的に取り上げるようになり、59年に「イズミスイングアンサンブル」に改称、さらにジャズ専門のビッグバンドとなり平成2年に現在の名称に改めた。現在は都心のライブなどのほか、バンドフェスティバルやこまえ市民まつりなど市内のイベントにも参加し、アマチュアながら、高い演奏技術で多くのファンを集めている。

これまでは5年ごとに周年コンサートを開いてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で演奏する機会が減り、昨年の55周年記念コンサートも中止となった。そのため、56周年となる今年の定例ライブはファンの多い地元で開催することにした。

演奏するのは「A列車で行こう」「ニューヨーク ニューヨーク」など10数曲。マネジャーの山本郁夫さんは「なじみの曲が多いので、ぜひ地元の市民に聴いていただきたい」と来場を呼びかけている。入場料は1,000円で、高校生以下は無料。入場券は泉の森会館で扱っている。

問い合わせ ☎080-5177-3938 山本さん。

和洋の多彩な生演奏が人気 駅前ライブ

9月11日(日)狛江駅北口交通広場で駅前ライブが催され、和と洋の多彩な生演奏に狛江フェスティバルに訪れた人も足を止めて楽しんでいた。

大正琴、キーボード、ドラムのユニークな編成の川崎市のバンド「和楽」が「カントリーロード」「ダイアナ」「二人でお酒を」「どうにも止まらない」などバラエティーに富んだ国内外の曲を披露した。

サンバの国ブラジルで音楽活動をした経験を持つ市内在住の青木カナさんと目黒区在住の飯島ゆかりさんによる音楽ユニット「Duo Pekorino」が「マッシュ・ケ・ナーダ」「ピポッカ」などスタンダードから自作の曲まで、情熱とリズム感に溢れた曲で聴衆を楽しませた。



和楽



Duo Pekorino